

		4		<p>1. モデル事業 60地区(保健センター)を設定</p> <p>2. 親子ふれあいフォーラム「絵本と出会う」開催 地区(2地区) 岩手県・兵庫県</p> <p>岩手県:平成14年10月31日、岩手県自治会館(105名参加)</p> <p>兵庫県:平成15年1月31日、兵庫県民会館(246名参加)</p> <p>3. 事業キャンペーンパンフレット「絵本と出会う」頒布</p> <p>4. 家庭用パンフレット「絵本と赤ちゃん」作成・頒布 ※3・4ともに、保健センター、都道府県、図書館、児童館等に頒布</p> <p>* 出版物等(テーマ:上記のいずれも該当)</p> <p>1. 広報誌「Monthly 保健センター」による関連記事掲載</p> <p>2. 子育て関係のリーフレット、パンフレット、テキスト、ビデオの頒布</p> <p>3. プレイコーナー備品(育児用遊具)の配分整備</p> <p>* ホームページによる情報提供(テーマ:上記のいずれも該当)全保連ホームページに全国の保健センターのホームページをリンク。</p>	<p>1. 教育ビデオ制作と配信</p> <p>2. 東西ブロック別「絵本と出会う」親子ふれあいフォーラム開催</p> <p>3. 事業キャンペーンパンフレット「絵本と出会う」改訂増刷・頒布</p> <p>4. 家庭用パンフレット「絵本と赤ちゃん」頒布 ※3・4ともに、保健センター、都道府県、図書館、児童館等に頒布</p> <p>* 出版物等(テーマ:上記のいずれも該当)</p> <p>1. 広報誌「Monthly 保健センター」による関連記事掲載</p> <p>2. 子育て関係のリーフレット、パンフレット、テキスト、ビデオの頒布</p> <p>3. プレイコーナー備品(育児用遊具)の配分整備</p> <p>* ホームページによる情報提供(テーマ:上記のいずれも該当)</p> <p>1. 全保連ホームページに全国の保健センターのホームページをリンク</p> <p>2. 児童虐待に関する指導者向け講座を掲載</p>
17	全国保健師長会				
18	全国養護教諭連絡協議会	1	<p>5. 薬物乱用の有害性について若者への知識の普及・啓発</p> <p>60. 栄養・食生活の改善 * パンフレットの作成、配布</p>	<p>5.</p> <p>* 研修会を実施</p> <p>目的(テーマ):薬物に関する現状と薬物乱用の有害性を伝え、学校内外での、教育や情報伝達を強化する。</p> <p>参加人数(対象者):200名(教育、保健関係者、PTA、民生委員等)</p> <p>開催数、方法等:3回(団体支部と県教育委員会との共同開催)〇〇県、××県、△△県で実施</p> <p>効果、その他:……………(具体的にお書き下さい)。</p> <p>60.</p> <p>目的:乳幼児期からの健康的な食習慣の確立をねらいとした食教育リーフレットの作成配布</p> <p>対象者:関係機関(保健センター、児童館等)に配布</p> <p>配布部数:10000部</p> <p>効果、その他:……………(具体的にお書き下さい)。</p>	<p>5. 薬物乱用</p> <p>* 研修会を継続実施</p> <p>前年と異なる内容:開催数を5回に拡大 ○〇県、△△県、……………で実施予定</p> <p>参加人員:……………程度を予定</p> <p>* 「〇〇週刊」に、都道府県支部にて事業を実施</p> <p>目的:広く一般市民向けに薬物乱用の有害性等の普及・啓発を行う</p> <p>開催県:全都道府県開催方法:ポスター作成の他、〇〇県では、……………を予定</p> <p>効果、その他:……………(具体的にお書き下さい)。</p> <p>60. 栄養・食生活の改善</p> <p>* パンフレットの作成、配布(継続実施)</p> <p>前年度と異なる内容:〇〇にも配布予定</p>
		1	<p>1. 研究活動</p> <p>2. 要請・要望活動</p> <p>3. 広報活動</p> <p>4. 本会の運営の充実</p>	<p>1. 研究活動</p> <p>① 調査研究課題と内容</p> <p>1) 新たな時代における養護教諭の職務の明確化とその再構築の取り組み</p> <p>・ 職務検討委員会;調査研究のまとめ</p> <p>・ 第8回研究協議会で発表</p> <p>2) 養護教諭に関わる医療的ケアの調査</p> <p>・ 医療的ケアに関わる委員会;調査研究の分析・検討</p> <p>・ 日本学校保健学会にて発表「学校での医療的ケア(日常・応急手当)に関する全国調査—第1報」</p> <p>② 研究誌「瑞星」3号編集・発刊、調査研究のまとめ、教育実践事例他</p> <p>③ 研修会の開催</p> <p>・ 目的:養護教諭の資質向上を図るとともに児童生徒の生涯を展望した学校保健の充実へ寄与する。</p> <p>・ 研修内容:養護教諭が行う保健学習。護教諭が各学校で教育計画に基づき組織的に健康教育に関わるために必要な事項を研修する。</p> <p>・ 講師:和唐 正勝氏他大学関係者</p> <p>・ 参加人数 100～200名</p> <p>・ 開催数、方法等:3回</p> <p>○アドバンスコース 福島県において実施(2日間)</p> <p>○スタンダードコース 宮崎県、東京都(3日間)において実施</p> <p>・ 効果:養護教諭の専門的な知識や技能の向上、児童生徒への理解の深</p>	<p>1. 調査・研究活動</p> <p>1) 調査研究 — 悉皆調査—</p> <p>2) 第6回研修会の開催</p> <p>日程:平成15年8月26日・27日・28日</p> <p>会場:国立オリンピック記念青少年総合センター</p> <p>内容:現代的課題の対処法と実践交流</p> <p>人数:180人3) 第5回学校保健連絡協議会の開催日程;平成15年6月21日会場:芝講演東京タワー機械振興会館内容:不登校問題に関する調査研究協力者会議から</p> <p>4) 全国養護教諭研究大会の共催と第6部会研究運営</p> <p>日程:平成15年7月30日・31日</p> <p>会場:長野県県民文化会館</p> <p>テーマ:「かがやけ! 養護教諭」— 新たな役割への挑戦—</p> <p>5) 第9回研究協議会</p> <p>日程:平成16年2月27日</p> <p>会場:メルパルクホール</p> <p>内容:講演、フォーラム</p> <p>2. 要請・要望活動</p> <p>1) 養護教諭の資質向上のための方策に関すること</p> <p>2) 養護教諭に関わる法改正等の運用に関すること</p>

				<p>化、教材研究、養護教諭としての専門的な指導力の向上等での成果が得られた。</p> <p>④ 研究協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的:養護教諭の職の確立に向け、養護教諭に必要とされる資質やそのための条件整備について協議し研究を深める。 ・研修内容:講演会、協議会—養護教諭の職について考える ・参加人数:1100人 ・対象者:養護教諭、教育委員会関係者、学校保健関係者 ・会場:東京 ・特別講演講師:田代 美代子「私の生きてきた道 ユネスコ世界寺子屋運動を通して」 ・効果:養護教諭の職の確立に向けて研究を深めることができた。 <p>⑤ 緊急代表者会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアに関する事項について ・対象者:養護教諭 ・参加者:150人 <p>⑥ 学校保健連絡協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的:近年社会において子どもたちが受ける影響も予測できないような事態が起こっている。養護教諭としてどのような取り組みをしなければならないかを研修を深める。 ・研修内容:学校事故の対応について ・参加人数:200名 ・開催会場:東京 ・講師:戸田 芳雄氏 ・効果:学校における危機管理や養護教諭のやくわりなどについて研修を深めることができた。 <p>⑦ 全国養護教諭研究大会の開催</p>	<p>3) 保健室の施設設備の充実に関すること</p> <p>4) 養護教諭養成課程の改善及び充実に関すること</p>
		1		<p>・目的:養護教諭の職の確立に向け、養護教諭に必要とされる資質やそのための条件整備について協議し研究を深める。</p> <p>・研修内容:講演会、協議会—養護教諭の職について考える</p> <p>・参加人数:1100人</p> <p>・対象者:養護教諭、教育委員会関係者、学校保健関係者</p> <p>・会場:東京</p> <p>・特別講演講師:田代 美代子「私の生きてきた道 ユネスコ世界寺子屋運動を通して」</p> <p>・効果:養護教諭の職の確立に向けて研究を深めることができた。</p> <p>⑤ 緊急代表者会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアに関する事項について ・対象者:養護教諭 ・参加者:150人 <p>⑥ 学校保健連絡協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的:近年社会において子どもたちが受ける影響も予測できないような事態が起こっている。養護教諭としてどのような取り組みをしなければならないかを研修を深める。 ・研修内容:学校事故の対応について ・参加人数:200名 ・開催会場:東京 ・講師:戸田 芳雄氏 ・効果:学校における危機管理や養護教諭のやくわりなどについて研修を深めることができた。 <p>⑦ 全国養護教諭研究大会の開催</p>	<p>3.広報活動</p> <p>1) 会報・事務局便りの発行</p> <p>2) ホームページの充実、その他</p> <p>4.医療的ケアに関する連絡会との連携</p> <p>1) 第1回連絡会開催 平成15年7月14日5 本会組織の盤石化</p> <p>③ 会則の改訂検討・確立</p> <p>④ 各委員会の開催</p> <p>6.他機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省関係、(財)日本学校保健会関係、厚生労働省関係他
		1		<p>2 要請・要望活動</p> <p>① 養護教諭の資質向上のための方策</p> <p>② 養護教諭に関わる法改正等の運用に関する要望</p> <p>③ 保健室の施設・設備の充実</p> <p>④ 養護教諭養成課程の改善・充実</p> <p>3 広報活動</p> <p>① 会報の発行</p> <p>② 事務局だよりの発行② ホームページの充実 ④ 雑誌「瑞星」3号発刊</p> <p>4 本会の運営の充実</p> <p>① 会則の改訂・細則の設定</p> <p>② 各委員会の開催</p> <p>5 他機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省関係、(財)日本学校保健会関係、厚生労働省関係 	
19	難病の子ども支援全国ネットワーク	3	42.43	<p>1.プレイリーダー(遊びのボランティア)養成講座の開設と活動支援。</p> <p>入院している子どもたちに遊びを提供するボランティアを養成し、その活動を援助した。</p> <p>講座:第5期 2002年5月21日から7月24日</p> <p>第6期 2002年9月17日から11月19日</p> <p>第7期 2003年1月23日から3月28日の3回開講し30名のプレイリーダーができた。現在の活動先は11病院にのぼっている。</p> <p>2.病弱教育セミナーの開講。病弱養護学校の教師を主な対象として、医療・教育・福祉に関する専門知識を学ぶセミナーで、今回で8回目。</p> <p>日時:2003年11月11日(金)から12日(日)</p> <p>場所:国立オリンピック記念青少年総合センター</p>	<p>1.プレイリーダー(遊びのボランティア)養成講座の開設と活動支援。</p> <p>入院している子どもたちに遊びを提供するボランティアを養成し、その活動を援助した。講座は5回開講を予定している。活動先と実習先の確保が課題。</p> <p>2.病弱教育セミナーの開講。</p> <p>病弱養護学校の教師を主な対象として、医療・教育・福祉に関する専門知識を学ぶセミナーで、今回で9回目。</p> <p>日時:2004年1月9日(金)11日(日) 14:00 集合</p> <p>場所:国立オリンピック記念青少年総合センター</p> <p>受講者:50名</p> <p>3.サンタクロースの病院訪問。</p>

			<p>受講者47名</p> <p>3.サンタクロースの病院訪問。 サンタクロースがプレゼントをもって入院中の子どもたちを見舞った。国立成育医療センター、東海大学付属病院、神奈川こども医療センター、慈恵医大病院、順天堂病院、東大病院、自治医大病院、東北大学病院、拓桃医療センターの9病院を訪問した。</p> <p>4.難病のこども支援全国ネットワーク電話相談室の開設。病気や障害のある子どもの家族を主な対象に情報提供を行っている。14年度は全国から318件の相談が寄せられた。</p> <p>5.サマーキャンプ「がんばれ共和国」を全国四ヶ所で建国。毎年8月に、宮城県蔵王町、神奈川県大井町、愛知県鳳来町、大分県湯布院町の全国4ヶ所で、「友達つくり」をテーマにキャンプが開かれている。病気や障害のある子どもと家族、ボランティアを合わせておよそ700名が参加した。</p> <p>あしがらキャンプ 8月2日(金)~4日(日) いこいの村あしがら セタキャンプ 8月9日(金)~11日(日) 蔵王ハイツ おいでんぼうらい 8月16日(金)~18日(日) モリトピア愛知 がんばれ共和国 in 九州 8月16日(金)~18日(日) 湯布院ハイツ</p>	<p>サンタクロースがプレゼントをもって入院中の子どもたちを見舞った。15年度は12病院を訪問する予定。</p> <p>4.難病のこども支援全国ネットワーク電話相談室の開設。 病気や障害のある子どもの家族を主な対象に情報提供を行っている。15年度は黒木良和前神奈川こども医療センター所長の「先天異常等特別相談日」を月に1回設ける。</p> <p>5.サマーキャンプ「がんばれ共和国」を全国四ヶ所で建国。 15年度も例年通り8月に、宮城県蔵王町、神奈川県大井町、愛知県鳳来町、大分県湯布院町の全国4ヶ所で、「友達つくり」をテーマにキャンプを開催する。病気や障害のある子どもと家族、ボランティアを合わせておよそ700名が参加の予定。</p> <p>あしがらキャンプ 8月1日(金)~3日(日) いこいの村あしがら セタキャンプ 8月8日(金)~10日(日) 蔵王ハイツ おいでんぼうらい 8月22日(金)~24日(日) モリトピア愛知 がんばれ共和国 in 九州 8月22日(金)~24日(日) 湯布院ハイツ</p>
		3	<p>6.親の会活動の支援。連絡会、研修会、いのちの輝き毎日奨励賞の贈呈。当会の主宰する親の会連絡会には、42の病気や障害のある子を持つ親たちが組織する親の会が参加している。情報交換、研修、親睦、社会運動のみならず、PR活動も行っている。14年度は、6回の定例会、臨時の会合が4回、研修旅行を1回、学会等での展示を4回行ったほか、小児慢性疾患法制化のための集会を議員会館で2回開催した。</p> <p>毎日新聞社の「小児がん征圧募金」から100万円の寄付があり、親の会を対象に「いのちの輝き毎日奨励賞」を設け、募集した結果、13団体から応募があり、厳正な選考の結果、次の5団体に各20万円を贈呈した。</p> <p>無痛無汗症の会トウモロウ TSつばさの会 ミトコンドリア病患者家族の会 SMA家族の会 医療的ケア全国ネットワーク</p> <p>7.こどもの難病シンポジウム-君に伝える病気のこと-ともに考えるためのインフォームドコンセント。 約170名の参加があり、活発に意見交換した。 日時:2002年6月1日(土) 13:30~17:30 場所:順天堂大学有山講堂</p>	<p>6.親の会活動の支援。連絡会、研修会、いのちの輝き毎日奨励賞の贈呈。当会の主宰する親の会連絡会には、42の病気や障害のある子を持つ親たちが組織する親の会が参加している。情報交換、研修、親睦、社会運動のみならず、PR活動も行っている。15年度も、定例会、研修旅行を1回、学会等での展示を行うほか、小児慢性疾患法制化のための集会を予定している。</p> <p>7.こどもの難病シンポジウムの開催。 15年は外国から関係者を招き国際シンポジウムを計画している。</p> <p>8.養護教諭セミナー 慢性疾患児が通常学級への編入を希望することが多くなっている一方、学校側の受け入れ態勢はまったくの未整備であることから、「小児慢性疾患検討会」の報告にあるように、通常学級の養護教諭を主な対象にセミナーを開催する。 日時:2003年10月(土)、11月1日(土)、8日(土) 10:30~16:30 場所:国立オリンピック記念青少年総合センター 受講者:100名 共催:全国養護教諭連絡協議会・日本児童教育振興財団</p>
20	(社団)日本医師会	1	<p>6.①学校保健委員会開催 ②学校医講習会開催 ③全国学校保健・学校医大会開催 10代の喫煙の防止</p> <p>・「肺がん」に禁煙キック!禁煙啓発ビデオ配布 配布先:全国の中学校(約12,000校) ・禁煙啓発パンフレット「君たちとタバコと肺がんの話」の配布</p> <p>①学校保健委員会開催 会長諮問「学校医活動の実践とその展開方法について」の検討 概要:諮問に対する骨子案作成 学校における結核対策(結核健診マニュアルを学校医に配布)の実施</p> <p>②平成14年度学校医講習会 平成15年2月15日(土) テーマ「学校保健にかかわる専門相談医のあり方(シンポジウム)」 対象:日本医師会員である学校医 参加人数:約290人</p> <p>③第33回全国学校保健・学校医大会(福井県)平成14年11月9日(土) 「みつめよう子供達の未来-学校医は何かができるだろうか」 対象:都道府県医師会関係者及び学校医 参加人数:約630人</p>	<p>禁煙啓発パンフレット「君たちとタバコと肺がんの話」の配布</p> <p>①学校保健委員会開催 会長諮問「学校医活動の実践とその展開方法について」に対する答申書作成</p> <p>②平成15年度学校医講習会を開催予定 平成16年2月14日(土) 対象:日本医師会員である学校医 参加人数:300人を予定</p> <p>③第34回全国学校保健・学校医大会を開催予定(青森県) 平成15年11月8日(土) 「たくましく生きる子どもたちの育成をめざして」 対象:都道府県医師会関係者および学校医 参加人数:650人を予定</p> <p>④各科専門医の学校保健活動に関する実践研究事業の実施 学校現場におけるいじめや不登校などの心の問題、性の逸脱行為、スポーツ障害、アレルギー疾患などの課題について、精神科医、産婦人科</p>

					科医、整形外科医、皮膚科医の協力が不可欠であることから、全国で3か所に委託し、研究事業を実施する。 ⑤「学校医の手引き」作成
		2	20.産婦人科医・助産師の確保と養成の推進・資質の向上	平成14年度家族計画・母体保護法指導者講習会の開催 平成14年12月7日(土) テーマ「周産期医療をとりまく環境整備よりよい医療提供のために」 対象:日本医師会会員 日本産科婦人科医会会員 参加人数:約170人	平成15年度家族計画・母体保護法指導者講習会を開催予定 対象:日本医師会会員 日本産科婦人科医会会員 参加人数:200人を予定
		3	35、38 ①乳幼児保健検討委員会開催 ②乳幼児保健講習会開催 35 保護者への心肺蘇生法の周知 38 予防接種(三種混合・麻しん)の必要性の周知と接種の勧奨の強化	35.「あなたにもできる心肺蘇生法」カードの作成・配布 作成部数:約200万部 配布先:都道府県・都市区医師会 官公庁他 38.麻しん予防接種推進ポスターキャンペーンの実施 作成部数:A2版ポスター約4万部 ブロード版 約16万2,000部 配布先:全国の保育所(全国保育協議会会員) 全国の小児科医療機関 都道府県医師会 日本医師会会員医療機関 ① 乳幼児保健検討委員会の開催 会長諮問「乳幼児が心身ともに健やかに育つための諸課題(地域における連携、病後児保育のあり方等)」に対する検討 概要:平成14年度は4回の委員会を開催し、病後児保育や予防接種、小児救急、児童虐待の問題等を取り上げ、医師会の果たす役割について検討を行った。 ② 平成14年度乳幼児保健講習会の開催 平成15年2月18日(日) 「育児と仕事を両立できる社会環境づくりを目指して」 対象:日本医師会会員 参加人数:約500人	35.「あなたにもできる心肺蘇生法」カードの作成・配布 作成部数:約200万部予定 配布先:都道府県・都市区医師会 官公庁他 38.麻しん予防接種推進ポスターキャンペーンの実施 ① 乳幼児保健検討委員会の開催 会長諮問「乳幼児が心身ともに健やかに育つための諸課題(地域における連携、病後児保育のあり方等)」に対する答申書作成 ② 平成15年度乳幼児保健講習会を開催予定 対象:日本医師会会員 参加人数:500人を予定
		4	45.49 45.虐待の発生予防、早期発見・対応、児の保護・支援の推進 49.育児について相談できる環境の整備	45.「児童虐待の早期発見と防止マニュアル-医師のために」刊行 日本医師会会員16万人に配布するとともに市販(明石書店) 49.出産前小児保健指導(プレネイタル・ビジット)モデル事業報告書作成 平成13年度に全国46地域で実施したモデル事業の結果を踏まえて、出産前小児保健指導事業の推進にあたっての課題等を指摘	①病後児保育の推進
21	(社団)日本栄養士会	4	46.子育てに自信が持てるような支援の推進 49.育児について相談できる環境の整備 60.栄養・食生活の改善	* 「子どもの食事・親子連続講座」(3回連続講座)を実施 目的:食べ物大切にすることを育むと同時に食事の重要性について親子で認識できる機会を設け、正しい食習慣形成や健全な親子関係への支援を行う。 参加対象者:3歳~就学前のお子さんとその保護者約20組 開催数:宮城県・栃木県・新潟県・島根県・香川県にて各々3回連続講座。 開催内容:親子簡単クッキング、食教育、食事相談コーナー 効果:食の楽しさと食の大切さを理解していただくことができた。親子間や同年代の子どもとその保護者とが交流できる機会を設けたことにより、食事相談が気軽にできる機会となった。 保育所を利用したことにより、地域の方に保育所を知ってもらうことができたこと、保育所職員の協力や食に対する理解が深められ、地域に密着した子育て支援活動を推進するための一つの足がかりとなった。 * 「児童福祉施設におけるクッキング講座」を実施 目的:摂取不足の栄養素(カルシウム等)の重要性を意識づける機会を設け、健康に役立つ食事づくりの向上を目指す。 参加対象者:児童福祉施設等に勤務している給食担当職員および指導員等 開催数:秋田県・福島県・茨城県・石川県・静岡県・愛知県・京都府・兵庫県・岡山県・長崎県にて各2回ずつ実施。	* 「子どもの食事・親子連続講座」(3回連続講座)を実施 目的:平成14年度に引き続き、食べ物大切にすることを育むと同時に食事の重要性について親子で認識できる機会を設け、正しい食習慣形成や健全な親子関係への支援を行う。 参加対象者:3歳~就学前のお子さんとその保護者約20組 開催数:北海道・埼玉県・兵庫県・岡山県・高知県にて各々3回連続講座。 開催内容:親子簡単クッキング、食教育、食事相談コーナー * 「児童福祉施設におけるクッキング講座」を実施 目的:平成14年度に引き続き、摂取不足の栄養素(カルシウム等)の重要性を意識づける機会を設け、健康に役立つ食事づくりの向上を目指す。 参加対象者:児童福祉施設等に勤務している給食担当職員および指導員等 開催数:宮城県・栃木県・神奈川県・福井県・長野県・岐阜県・島根県・広島県・香川県・宮崎県にて各2回ずつ実施。 開催内容:スキムミルクを使用した調理実習と「食育」に関する講演を行う。 * 「児童福祉担当栄養士研修会」を実施

				開催内容: スキムミルクを使用した調理実習と「食育」に関する講演を行う。 効果: 新たなメニューの学習や調理技術、各種最新情報の習得ができ、活用の幅をひろげられた。また、他の施設の職員との情報交換ができ、「食育」の大切さを他職種の方にも理解していただけたことができた。	目的: 栄養士の専門性の研鑽を図り、子どもの栄養管理、多様化する保育への対応、地域の子育て支援に生かし、わが国の児童福祉の発展向上に寄与することを目的とする。
		4		* 「児童福祉担当栄養士研修会」を実施 目的: 栄養士の専門性の研鑽を図り、子どもの栄養管理、多様化する保育への対応、地域の子育て支援に生かし、わが国の児童福祉の発展向上に寄与することを目的とする。 参加対象者: 児童福祉施設勤務管理栄養士・栄養士、市町村児童福祉行政担当管理栄養士・栄養士 参加人数: 東京会場(195名) 大阪会場(246名) 開催内容: 「食育」に関する講演と事例報告。 効果: 乳幼児期からの「食育」の必要性を理解し、保育所や地域でのネットワークづくり、「食育」活動の取り組みの方策を学ぶことができた。 * 「食育リーフレット」を活用した食育 目的: 食育リーフレットとアンケートを活用し、その結果から家庭の食事の様子・親子関係を把握して、次の指導に反映させる。 参加対象者: 保育所あるいは地域の保護者 配布枚数: 6216枚(希望者) 配布方法: 講演会、懇談会、調理実習、行事等の食教育の教材として使用。 効果: リーフレットを活用することにより、食育の導入をスムーズにすることができた。家族で食事をすることの大切さを伝え、子ども・家族の健康について考えるきっかけとなり、保護者の意識の変化がみられた。	参加対象者: 児童福祉施設勤務管理栄養士・栄養士、市町村児童福祉行政担当管理栄養士・栄養士 開催場所: 東京会場・大阪会場 開催内容: 「食育」に関する講演と事例報告。 * 「食育リーフレット」を活用した食育 目的: 食育リーフレットとアンケートを活用し、その結果から家庭の食事の様子・親子関係を把握して、次の指導に反映させる。 参加対象者: 保育所あるいは地域の保護者 配布方法: 講演会、懇談会、調理実習、行事等の食教育の教材として使用。 * 保育所栄養士業務の実態調査 目的: 保育所における食育の実践の状況を把握し、有効事例を広報する。 対象者: 〈基礎調査〉保育所栄養士(無作為)1,000名～2,000名 〈個別調査〉食育を実践している保育所栄養士 * 保育所栄養士業務マニュアルの作成 目的: 保育所栄養士が円滑かつ適切な栄養管理を行うためのマニュアルを作成し、適切な業務遂行の一助とする。
22	(社団)日本家族計画協会	1	(別紙参照)	(別紙参照)	(別紙参照)
		2	(別紙参照)	(別紙参照)	(別紙参照)
		4	(別紙参照)	(別紙参照)	(別紙参照)
23	(財)日本学校保健会	1	9. 性感染症に対する若者の知識の普及・啓発 10. 学校保健委員会開催と開催への支援強化 11. 外部機関と連携した薬物乱用防止教育の推進	9. * エイズパンフレットの配布 小学校ポスター 全校 中学1年パンフレット 全員 高校1年パンフレット 全員 10. * 「健康教育推進学校表彰事業」の創設 学校・家庭・地域社会が協力して健康教育を推進し、成果をあげている学校を表彰する事業について、本年度第一回の表彰を行った。 保健室利用状況報告書の配布 前年度の実態調査に基づき、報告書を作成し、全市町村に配布した。 11. * 薬物パンフレットの配布 小学生ポスター 全校 中学1年パンフレット 全員 高校1年パンフレット 全員 * 薬物乱用防止教室ビデオの作成配布 小・中・高等学校が薬物乱用防止教室を開催するに当たっての参考ビデオを全校に配布した。	9. 性感染症に対する若者の知識の普及・啓発 10. 学校保健委員会開催と開催への支援強化 11. 外部機関と連携した薬物乱用防止教育の推進 は前年度と同様の活動を行う。 新規として 6. 十代の飲酒の防止 * 喫煙防止教育教材作成小委員会を設置し 小学生ポスター 全校 中学1年パンフレット 全員 高校1年パンフレット 全員 に配布することとしている。
24	(社団)日本看護協会	1	8. 避妊法に対する若者の知識・技術の普及・啓発 および「健やか親子 21」の思春期に関する課題と助産師活動のあり方の検討	1. 母体保護法第39条に関する検討 (目的)平成13年度に実施した受胎調節実地指導等の予備調査の結果を踏まえて、本調査の企画・実施および受胎調節実地指導の拡大・強化をはかった。 (内容)日本助産師会との意見交換を行い、調査票作成。厚生科学研究にて8月に郵送法による質問紙調査を実施。(対象者2,850名:有効回答数1,105名、回収率38.8%) 今後、受胎調節実地指導員の業務の強化・拡大について検討予定。	1. 思春期における人工妊娠中絶・性感染症に向けての活動 1) 「健やか親子 21」の思春期に関する課題と助産師活動のあり方の検討 (目的)思春期の保健対策の強化と健康教育の推進をしていくための職能の役割を検討する。 (内容)人工妊娠中絶、性感染症の減少をはかるための具体的活動 2) 母体保護法第39条に関する検討 (目的)平成14年度計画継続

				<p>「健やか親子 21」の思春期に関する課題と助産師活動のあり方の検討 (目的)「健やか親子 21」の思春期に関する課題における助産師活動の現状を把握し、職能としての今後の取組みの方向性を探る。 (内容)1) 思春期における人工妊娠中絶・性感染症の減少を目指し、職能としての役割および活動展開に関しての具体策の検討を行った。 2) 都道府県看護協会と連携し、地区別都道府県助産師職能委員長会で実際に思春期教育を実践している施設などの実態把握を行った。 3) 第1回・第2回都道府県助産師職能委員長会において、思春期に関する講演および活動報告の企画実施。 第1回:平成14年7月26日 如水会館 第2回:平成15年1月31日 ホテルフロラシオン青山</p>	<p>(内容)平成14年度に実施した受胎調節実地指導等の実態調査結果を踏まえ、受胎調節実地指導員の活動の拡大・強化の検討をおこなう。</p>
	2	15.満足できる妊娠・出産への支援 22.不妊治療を受ける際の環境整備と関係者の資質向上(カウンセリングなどの提供等)	<p>15.1. 参加型妊産婦のトレーナーズ研修 (目的)保健指導の指導者自身が相手をひきつける自らの力を発見し、マンネリ化しやすい母親学級や育児指導などの魅力的な展開ができる。 (内容)・ゲームエクササイズからの発見 ・参加型研修体験 ・役割、生き方、あり方の再考 (日時)平成14年5月16日～31日<3日間>(清瀬) 定員50名 平成14年5月20日～22日<3日間>(神戸) 定員50名 2. フリースタイル出産の援助技術 (目的)安全で安楽な分娩を支援する柔軟で具体的な援助方法を学ぶ。 (内容)・アクティブバース ・分娩時ルチンワークの見直し ・フリースタイル出産 (日時)平成14年9月30日～10月1日<2日間>(清瀬) 定員50名 22.1. 不妊看護認定看護師の育成(神戸研修センター) (目的)施設において、不妊の問題を抱えたカップルに対して適切なアセスメントを行い、全人的なケアを実施し、その卓越した実践能力を基盤として、他の看護職に対する相談・指導を担う能力を育成する。 (内容)リプロダクティブヘルス理論・不妊の基礎知識・不妊症の診断・不妊症の治療・社会現象としての不妊・不妊看護概論・不妊看護援助論Ⅰ・不妊看護援助論Ⅱ・不妊看護のマネジメント ほか (定員)20名 (期間)6ヶ月 平成13年10月～平成14年3月</p>	<p>15.1. 参加型妊産婦のトレーナーズ研修(看護教育・研究センター/清瀬・神戸) (目的)保健指導の指導者自身が相手をひきつける自らの力を発見し、マンネリ化しやすい母親学級や育児指導などの魅力的な展開ができる。 (内容)・ゲームエクササイズからの発見 ・参加型研修体験 ・役割、生き方、あり方の再考 (日時)平成15年5月14日～16日<3日間>(清瀬) 定員50名 平成16年2月16日～18日<3日間>(神戸) 定員100名 2. フリースタイル出産の援助技術(看護教育・研究センター) (目的)妊産婦のニーズに応え、個を尊重した安全で安楽な分娩を支援する具体的な援助法を学ぶ (内容)・アクティブバースにおける看護職の役割 ・分娩時ルチンワークの見直し ・医療施設におけるアクティブバース ・フリースタイル出産の技術演習 (日時)平成15年6月19日～20日<2日間>(清瀬) 定員80名 16.1. 母子のメンタルヘルスケア(神戸研修センター) (目的)妊産婦ならびに育児中の母親のメンタルヘルスを学ぶとともに、母子保健に携わる看護職および他の専門職、関係機関と連携を図るための知識を得る。 (内容)・妊産婦の心理とケア ・乳幼児の発育と育児支援 ・精神科疾患を持つ妊産婦のケア ・周産期の死を経験した両親へのメンタルヘルス ・地域におけるメンタルヘルスケア (日時)平成15年12月10日～12日<2日間>(神戸) 定員100名</p>	
	2			<p>22.1. 不妊看護認定看護師の育成(神戸研修センター) (目的)施設において、不妊の問題を抱えたカップルに対して適切なアセスメントを行い、全人的なケアを実施し、その卓越した実践能力を基盤として、他の看護職に対する相談・指導を担う能力を育成する。 (内容)リプロダクティブヘルス理論・不妊の基礎知識・不妊症の診断・不妊症の治療・社会現象としての不妊・不妊看護概論・不妊看護援助論Ⅰ・不妊看護援助論Ⅱ・不妊看護のマネジメント ほか (定員)20名 (期間)6ヶ月 平成15年10月～平成16年3月</p> <p>2. 生殖医療と不妊看護の役割(神戸研修センター) (目的)生殖にかかわる医療の進展と倫理的課題について不妊看護の</p>	

					果たす役割を考える。 (内容)・生殖医療の動向 ・生命倫理・出生前診断 ・自己決定のための支援 ・不妊看護 (日時)平成15年6月26日～27日<2日間>(神戸)定員150名
		3	43.慢性疾患児などの在宅医療の支援体制の整備と充実(課題4.53を含む)	43.1.小児慢性疾患看護検討プロジェクト (目的)小児慢性疾患児の在宅医療における看護の課題整理、および慢性疾患児の在宅医療に係わる看護関連の事業についての検討。 (内容) 1)課題整理:現行制度に基づくサービスの実態から現状を分析、問題と課題を整理。 2)事業検討:在宅ケアにおける看護職間ネットワークに関すること、小児在宅ケアのガイドラインに関すること、研究活動の推奨等、5項目10事業提案があった。	43.1.小児慢性疾患児の在宅ケア支援 1)退院調整に関するガイドライン作成 (目的)小児慢性疾患児の在宅ケア支援体制の整備と充実 (内容)病院から在宅ケアに移行する際の退院調整に関するガイドラインの作成
		4	45.虐待の発生予防、早期発見・対応、児の保護・支援の推進 48.親がゆったりとした気分で子どもと過ごすための支援の推進 53.周産期医療施設から退院したハイリスク児へのフォロー体制の確立	45.1.基本的知識の普及と啓発 (目的)子ども虐待の早期予防・早期発見・支援における看護職の役割の検討および情報の提供 (内容)「看護職による子どもの虐待予防と早期発見・支援に関する指針」の作成と配布25,000部 配布先:県協会、会員施設、保健所・保健センター、児童相談所、市町村等 2.児童虐待予防活動と連携に関する手引きの作成と配布 (目的)子ども虐待の基本的知識の充実と普及啓発 ・虐待の予防・発見・支援に関する看護職の能力向上 (内容)「看護職のための子どもの虐待予防&ケアハンドブック」の作成25,000部 配布先:県協会、会員施設、保健所・保健センター、児童相談所、市町村等 3.看護職者間の連携促進とネットワークづくり (目的)子ども虐待対策における看護職の連携促進 (内容)「子ども虐待予防交流会」の開催 日時:平成15年2月8日 東京全共連ビル 参加者:医療・保健・福祉の現場で子ども虐待対策に取り組む看護職 151名 4.児童虐待に取り組む医療機関の聞き取り調査 (目的)医療機関における児童虐待の可能性を発見した際の対応やケアについて実態を把握し、看護師の役割を考える。今後の取組みの資料化をはかる。 (内容)全国6地区から児童虐待に取り組んでいる6つの医療施設の現状について、訪問し聞き取り調査を実施。今後の活動内容を検討・方向性をまとめた。	45.1.看護職者間の連携促進とネットワークづくり (目的)子ども虐待対策における看護職の連携促進 (内容)「第2回子ども虐待予防対策交流会」の開催 日時:平成16年2月頃 対象者:医療・保健・福祉の現場で子ども虐待対策に取り組む看護職200名 46.1.子育て支援と看護職者の役割(看護教育・研究センター/清瀬・神戸) (目的)現代社会における子育ての現状と子どもの虐待の背景を理解し、子育て支援における看護職の役割を考える。 (内容)・現代社会における子育ての現状 ・子どもの虐待の現状と家族支援 ・母子保健対策 ・看護職に期待される役割 ・子育て支援に関する連携の実例 (日時)平成15年7月17日～18日<2日間>(神戸)定員100名 平成16年1月29日～30日<2日間>(清瀬)定員100名 48.1.子どもと家族への看護・支援(神戸研修センター) (目的)現代の子どもに関する社会的現象を理解し、入院生活を送る子どもとその家族への看護の役割を考える。 (内容)・小児看護における家族支援(その意義と課題) ・子どもの成長発達とQOL ・小児疾患と治療の現状 ・看護者と療育者の役割機能 (日時)平成15年11月17日～18日<2日間>(神戸)定員150名
		4		48.1.子どもと家族への看護・支援(看護教育・研究センター/清瀬・神戸) (目的)現代の子どもに関する社会的現象を理解し、入院生活を送る子どもとその家族への看護の役割を考える。 (内容)・小児看護における家族支援(その意義と課題) ・子どもの成長発達とQOL ・小児疾患と治療の現状 ・看護者と療育者の役割機能 (日時)平成14年6月24日～25日<2日間>(神戸)定員100名 平成15年2月3日～4日<2日間>(清瀬)定員100名 53.→健やか親子21推進協議会第3課題グループ検討事項 参照	

25	日本公衆衛生学会	1	6.(十代の喫煙防止) 13.(思春期外来等の整備)	6.(十代の喫煙防止) ○平成14年5月に本学会の理事長名で、「たばこのない社会の実現に向けて、さらなる前進を」と題する宣言を公表し、喫煙防止教育の推進や禁煙環境の整備を呼びかけた。(宣言文は、日本公衆衛生雑誌、第49巻第5号の巻頭に掲載。) ○第61回総会(平成14年10月、さいたま市)において、「未成年者に対する喫煙防止」に関するミニシンポジウムを開催した。(参加者200人) 13.(思春期外来等の整備) ○第61回総会において、「思春期相談と関係機関の連携」に関するミニシンポジウムを開催した。(参加者150人)	6.(十代の喫煙防止) ○第62回総会(平成15年10月、京都市)において、喫煙対策の推進に関するシンポジウムを開催する。 ○第62回総会での採択を目的に、たばこ対策に関する本学会の基本方針や目標を盛り込んだ「行動宣言」を作成する。
		3	38.(予防接種の必要性の周知と接種勧奨の強化)	38.(予防接種の必要性の周知と接種勧奨の強化) ○第61回総会(平成14年10月、さいたま市)において、「麻疹ワクチンをめぐる諸問題」に関するミニシンポジウムを開催した。(参加者140人)	23~43(このうちの数項目)。(小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備に関する数項目) ○第62回総会において、本課題に関連した行事を企画し実施する。
		4	44.45.47.58.(児童虐待防止関係) その他	44.45.47.58.(児童虐待防止関係) ○第61回総会(平成14年10月、さいたま市)において、「子ども虐待予防の取り組みと課題」をテーマとしたシンポジウム、及び「児童虐待をめぐる諸提言」に関するミニシンポジウムを開催した。 その他 ○育児中の会員でも安心して学会行事に参加し研鑽を積めるようにするために、第61回総会の会場内に託児所を設置した。	44~59(このうちの数項目)。(子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減に関する数項目) ○第62回総会において、本課題に関連した行事を企画し実施する。
26	(社団)日本産科婦人科学会	2	14.妊産婦死亡の防止 15.満足できる妊娠・出産への支援 21.「不妊専門相談センターの整備と機能の向上」	14.「健やか親子21」では、妊産婦死亡を10年間に1/2までに減少させることを目標としている。その目標実現の為に、一次(助産院を含む)・二次・三次施設の病・病連携、病・診連携の更なる促進を計り安全性を高める。 15.「共通認識としての提言」 ①妊娠・分娩における「安全性」と「快適性」について 安全性と快適性は産科に携わる医師の間では時に相反する言葉として捉えられてきたが、昨年度からの6回の幹事会での検討で、妊娠・分娩を積極的に展開する上では、車の両輪を委ねず言葉として捉えるべきであるとの結論に達することができた。即ち医療、施設側は分娩の快適性の確保に努力し、助産師側は安全性に努力すべきである。 ②分娩の「快適性」 施設側が助産所分娩から学ぶべきものにバースプランという概念がある。妊産婦は分娩様式や授乳方法などについて自主的な選択としてバースプランを立てる。この企画立案を達成することで快適な分娩が具体化するとも考えており、その意味でもバースプランを立てることの意義は大きいので、この概念を認める努力が大切である。 21.今年度は不妊相談センターの整備の重要性を認識するにとどまった。次年度の活動を期待したい。	14.15 年度も前年度に引き続き、一次・二次・三次施設間の病・病連携、病・診連携の促進に努める。 15.① 助産施設等における安全性を確保する為に多施設における妊娠・分娩の転機についてデータを集積し、予期せぬハイリスクの妊産婦数の詳細な検討を行う。 ② 診療所・病院などの産科施設における快適性を促進する為に、妊産婦が企画立案するバースプランについて十分なディスカッションを行い、実施に向けての具体策を講ずる。 21.各地方自治体が計画し実施しているセンターの整備状況を調査し、更なる促進のためのアクションプランを立てる。
27	(社団)日本歯科医師会	3	62.(歯の健康の推進)幼児期のう蝕予防	62.(歯の健康の推進) *第51回母と子のよい歯のコンクールの実施 目的(テーマ):厚生労働省と日本歯科医師会の主催により3歳児歯科健康診査受診者及びその子供の母親もよい歯を保持している母子を選出し優秀者の表彰を行い、歯の健康保持に関する知識の普及啓発を図る。 参加人数(対象者):平成13年度に行われた全国の3歳児歯科健康診査の受診者(平成13年度受診者数 978,834人)。地方審査を経て都道府県から中央審査会に申請のあった母と子は34組でその中から優秀な6組を選出し、優秀母子6組に対する表彰(厚生労働大臣表彰及び日本歯科医師会会長表彰)は、11月9日(土)に静岡市で開催された第23回全国歯科保健大会の式典で行った。 開催数、方法等:毎年1回 62.(歯の健康の推進)	62.(歯の健康の推進)幼児期のう蝕予防 *第52回母と子のよい歯のコンクールの実施 目的(テーマ):厚生労働省と日本歯科医師会の主催により3歳児歯科健康診査受診者及びその子供の母親もよい歯を保持している母子を選出し優秀者の表彰を行い、歯の健康保持に関する知識の普及啓発を図る。 参加人数(対象者):平成14年度に行われた全国の3歳児歯科健康診査の受診者の中から地方審査を経て都道府県から中央審査会に申請のあった母と子を対象に優秀な6組を選出する。優秀母子6組に対する厚生労働大臣表彰及び日本歯科医師会会長表彰は、11月15日(土)につくば市で開催する第24回全国歯科保健大会の式典で行うこととしている ※歯の衛生週間の実施

				<p>※歯の衛生週間の実施</p> <p>目的:歯の衛生に関する正しい知識を国民に対して普及啓発するとともに、歯科疾患の予防に関する適切な習慣の定着を図り、併せてその早期発見及び早期治療等を徹底することにより歯の寿命を延ばし、もって国民の健康の保持増進に寄与することを目的とする。</p> <p>標語:「じょうぶな歯 健康づくりの 第一歩」</p> <p>重点目標:「地域に根ざした8020運動の展開」</p> <p>地域において、8020運動のより実践的な展開を図り、地域の特色を踏まえた生涯を通じた歯の健康づくりを進めるため、「地域に根ざした8020運動の展開」を重点目標とする。</p> <p>主催:(中央)厚生労働省、文部科学省、日本歯科医師会実施要領及びポスターの配布による周知、中央及び地方の主催団体から実施要領を配布し周知徹底と普及啓発に努めるとともに日本歯磨工業会の協力により作成したポスターを28万枚作成、関係機関・団体等に配布した。</p>	<p>目的:歯の衛生に関する正しい知識を国民に対して普及啓発するとともに、歯科疾患の予防に関する適切な習慣の定着を図り、併せてその早期発見及び早期治療等を徹底することにより歯の寿命を延ばし、もって国民の健康の保持増進に寄与することを目的とする。</p> <p>標語:「わたしの歯 みらいへつづく たからばこ」重点</p> <p>目標:「地域に根ざした8020運動の展開」地域において、8020運動のより実践的な展開を図り、地域の特色を踏まえた生涯を通じた歯の健康づくりを進めるため、「地域に根ざした8020運動の展開」を重点目標とする。</p> <p>主催:(中央)厚生労働省、文部科学省、日本歯科医師会実施要領及びポスターの配布による周知、中央及び地方の主催団体から実施要領を配布し周知徹底と普及啓発に努めるとともに日本歯磨工業会の協力により作成したポスターを28万枚作成、関係機関・団体等に配布する。</p>
		3		<p>62(歯の健康の推進)</p> <p>※母子歯科保健推進協議会の開催</p> <p>母子保健に関する法人格を持つ全国的組織である諸団体との意思の疎通を図るために、昭和52年に本協議会を設置し、地域社会における歯科保健事業の推進を目指して毎年1回開催している。平成14年度は、平成15年3月26日(水)に開催し、本会の推進する歯科保健事業に関し協力を要請するとともに、母子歯科保健の推進について懇談した。なお、母子保健推進会議の母子保健推進員向けの機関紙「母推さん」に平成14年度から歯科保健に関するページ『8020の里』に毎号原稿を提出し掲載されている。</p> <p>[加盟団体] (社)母子保健推進会議、(社)全国保健センター連合会、(社)日本家族計画協会、(社)母子衛生研究会、(財)日本母子衛生助成会、(社)日本栄養士会、(財)日本食生活協会、(財)日本公衆衛生協会、(社)全国私立保育園連盟、(社会福祉法人)恩賜財団母子愛育会、(社)日本歯科衛生士会、(社)日本歯科医師会</p> <p>62.(歯の健康の推進)</p> <p>※第21回保育所(園)・幼稚園表彰の実施</p> <p>4～5歳児に及ぼすう蝕の影響性に鑑み、保育所(園)・幼稚園のう蝕の早期処置を勧めるとともに歯科保健指導が徹底している保育所(園)・幼稚園からの参加申し込みを受け、夏休み前と後の2回にわたる歯科健診の結果を、都道府県歯科医師会を経由して提出された調査票に基づき審査の上、応募のあった220ヶ所について「優秀」57「努力」112「参加」51の各賞を決定し表彰した。</p> <p>62(歯の健康の推進)</p> <p>※8020達成イメージ図の配布</p> <p>乳幼児期から高齢期にいたる各ライフサイクルに対応する歯科保健事業の活性化による歯牙の喪失防止に向けて、都道府県歯科医師会向けに関係団体との歯科保健事業の評価資料として8020達成イメージ図を配布した。</p>	<p>※母子歯科保健推進協議会の開催</p> <p>母子保健に関する法人格を持つ全国的組織である諸団体との意思の疎通を図るために、昭和52年に本協議会を設置し、地域社会における歯科保健事業の推進を目指して毎年1回開催している。本会の推進する歯科保健事業に関し協力を要請するとともに、母子歯科保健の推進について懇談している。なお、母子保健推進会議の母子保健推進員向けの機関紙「母推さん」に平成14年度に引き続き歯科保健に関するページ『8020の里』に毎号情報提供の原稿を提出することとしている。</p> <p>[加盟団体] (社)母子保健推進会議、(社)全国保健センター連合会、(社)日本家族計画協会、(社)母子衛生研究会、(財)日本母子衛生助成会、(社)日本栄養士会、(財)日本食生活協会、(財)日本公衆衛生協会、(社)全国私立保育園連盟、(社会福祉法人)恩賜財団母子愛育会、(社)日本歯科衛生士会、(社)日本歯科医師会</p> <p>※第22回保育所(園)・幼稚園表彰の実施</p> <p>4～5歳児に及ぼすう蝕の影響性に鑑み、保育所(園)・幼稚園のう蝕の早期処置を勧めるとともに歯科保健指導が徹底している保育所(園)・幼稚園からの参加申し込みを受け、夏休み前と後の2回にわたる歯科健診の結果を、都道府県歯科医師会を経由して提出された調査票に基づき審査の上、「優秀」「努力」「参加」の各賞を決定し表彰することとしている。</p>
		3		<p>※海外歯科問題フォーラムの開催</p> <p>海外に派遣される労働者及びその常同家族の歯科保健管理が問題化していることから、「海外での母子保健医療の諸問題」をテーマとして平成15年1月31日にフォーラムを開催し、約300名が参加した。</p>	
28	日本思春期学会	1	1.2.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13	<p>I. 平成14年度会員数(平成15年3月末日現在) 1,985人 (昨年度同期 1,982人)</p> <p>II. 学術集会の開催</p> <p>第21回日本思春期学会学術集会(会長:金沢大学大学院医学系研究科泌尿器科学 並木幹夫教授)を、平成14年8月23日、24日金沢市文化ホールにおいて開催。なお8月22日にはプレコンGRESを金沢市文化ホー</p>	<p>I. 学術集会</p> <p>第22回日本思春期学会総会並びに学術集会(会長:京都府立医科大学 婦人科教授本庄 英雄)は、平成15年8月16日～19日国立京都国際会館において開催。</p> <p>II. 『思春期学』の発行</p> <p>III. 渉外活動</p>

			<p>ルにおいて開催。</p> <p>参加者数 プレコンgres 311人 学術集会 585人 メインテーマ「IT社会と思春期」一般演題 46題</p> <p><プログラム></p> <p>1. プレコンgres(市民公開講座)</p> <p>思春期をめぐる問題と「健やか親子 21」-保健・医療・教育現場での取り組み-</p> <p>司会: 関 秀俊(金沢大学医学部保健学科 母性・小児看護学) 越田 理恵(金沢市福祉保健部 元町福祉保健センター)</p> <p>①「思春期における心と体の健全な発育をめざして…行政としての対応」 谷口 隆(厚生労働省 雇用均等・児童家庭局)</p> <p>②「成育医療の視点からみた“思春期のこころ”のネットワークケア」 田原 卓浩(国立成育医療センター総合診療部)</p> <p>③「スクールカウンセラーの取り組み」 平口 真理(金沢医科大学精神神経科 臨床心理士)</p> <p>④「教育現場との連携による性・エイズ教育の実践」 岩室 紳也(神奈川県厚木保健所 神奈川県立厚木病院泌尿器科)</p> <p>⑤「10代女性における無症候性感染症流行の現状と問題点」 姥名 紀子(育愛会 札幌東豊病院 産婦人科)</p> <p>⑥「地域活動で展開する生と性の学習会-性的自立と生涯にわたる性の健康を守るために-」坂谷 理恵子(金沢市星の子助産院 助産婦)</p>	<p>1. 「健やか親子21」国民運動推進協議会・参加団体として、特に「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」の課題に取り組む。</p> <p>2. アジア性科学連合、日本性科学連合への参加</p> <p>3. 世界小児思春期婦人科連合(FIGIJ)への参加</p> <p>4. 学会、会議、セミナー等への後援</p> <p>1) (社)日本家族計画協会主催・本学会の後援・指導</p> <p>①第7回交流分析セミナー(思春期保健相談員研修会) 期日:平成15年11月予定 会場:(東京都)</p> <p>②第7回ライフ・スキル教育セミナー(思春期保健相談員研修会) 期日:平成15年12月23日(火) 会場:(東京都)</p> <p>③第21回 マスリー・ヒクスインストラクター認定セミナー(思春期保健相談員研修会) 期日:平成16年3月予定 会場:(東京都)</p> <p>④思春期保健相談員学術研究大会 期日:平成15年6月20日(金) 会場:すみだリバーサイドホール</p>
	1		<p>2. 学術集会および総会</p> <p>1) 基調講演 「IT社会の中の子供達」森 ミドリ(音楽家)</p> <p>2) 特別講演 特別講演Ⅰ「日本の若者の性行動と性感染症感染リスク」木原雅子(広島大学大学院医歯薬学総合研究科病態情報医学講座) 特別講演Ⅱ「男性の思春期」熊本悦明(財団法人 性の健康医学財団 会長)</p> <p>3) 会長講演 「思春期と遺伝子」並木幹夫(金沢大学大学院医学系研究科泌尿器科学)</p> <p>4) シンポジウム シンポジウムⅠ「IT社会のコミュニケーション」 司会: 渋谷 昌三(目白大学人間社会学部社会情報学科) 北村 邦夫((社)日本家族計画協会 クリニック)</p> <p>①「若者のコミュニケーションにおけるIT利用の現状」 川浦 廣至(横浜市立大学国際文化学部社会心理学)</p> <p>②「IT社会に生きる」 若者代表</p> <p>③「ITと社会的適応」 小林 久美子(お茶の水女子大学大学院博士課程在籍)</p> <p>④「IT社会に望まれるコミュニケーションスキル」 渋谷 昌三(目白大学人間社会学部社会情報学科)</p> <p>シンポジウム2「思春期における問題行動」 司会: 小山 善子(金沢大学医学部保健学科 成人・老人看護学) 清田 吉和(石川県こころの健康センター所長)</p> <p>①「思春期・青年期における社会的ひきこもりについて」 近藤 直司(山梨県精神保健福祉センター所長)</p> <p>②「思春期と非行」</p>	<p>IV. 研修事業</p> <p>1. 誌上研修 『思春期学』Vol. 21 No. 2 「人工妊娠中絶と看護」をテーマに実施 『思春期学』Vol. 21 No. 3 「摂食障害」 『思春期学』Vol. 21 No. 4 未定 『思春期学』Vol. 22 No. 1 未定</p> <p>2. 第22回日本思春期学会学術集会において、8月17日に「思春期と法律」をテーマとして研修会を開催。</p> <p>3. その他</p> <p>1) (社)日本家族計画協会主催(厚生労働省・文部科学省後援)日本思春期学会認定「思春期保健相談員」養成のための思春期保健セミナーの後援・指導</p> <p>コースⅠ第43回 平成15年 6月27日～29日(愛知県) コースⅠ第44回 平成15年 7月25日～27日(神奈川県) コースⅡ第35回 平成15年 9月14日～16日(東京都) コースⅡ第36回 平成15年10月24日～26日(山口県) コースⅢ第44回 平成15年12月12日～14日(岡山県) コースⅢ第45回 平成16年 1月 9日～11日(千葉県) コース上級 第 4回 平成16年 2月20日～22日(千葉県)</p>

			<p>市村 多加子(金沢家庭裁判所次席家庭裁判所調査官)</p> <p>③「現代青年の対人関係」</p> <p>岡田 努(金沢大学文学部人間学科心理学講座)</p> <p>④「思春期と睡眠障害」</p> <p>大川 匡子(滋賀医科大学精神医学教室)</p>	
	1		<p>シンポジウム 3「性同一性障害への対応」 司会:小池 浩司(金沢大学大学院医学系研究科産婦人科学)</p> <p>① 性同一性障害を初めとする性的少数派に対する我が国の現状と社会の対応 伊藤 悟(法政大学文学部教育学科)</p> <p>② 思春期における性同一性障害へのあり方 虎井 まさ衛(作家)</p> <p>③ 性同一性障害の診断と心理社会的アプローチ 塚田 攻(埼玉社会保険病院・精神神経科)</p> <p>④ 性同一性障害に対する手術(性別適合手術) 井上 義治(埼玉医科大学総合医療センター・形成外科)</p> <p>シンポジウム 4「思春期と栄養」</p> <p>司会:田坂 慶一(大阪大学大学院医学系研究科産科婦人科学) 大関 武彦(浜松医科大学小児科)</p> <p>① 思春期の栄養所要量 小松 龍史(お茶の水女子大学生生活科学部)</p> <p>② 国民栄養調査結果から見た、思春期の栄養摂取と問題点 滝本 秀美(国立健康・栄養研究所 健康・栄養調査研究部主任研究員)</p> <p>③ 思春期の栄養と疾患 大関 武彦(浜松医科大学小児科)</p> <p>④ 思春期女性の栄養摂取と問題点 廣田 孝子(辻栄養調理師学校)</p> <p>⑤ 思春期栄養摂取と生活習慣病の予防 小松 啓子(福岡県立大学人間社会学部)</p> <p>5) 一般演題、その他</p> <p>6) ランチョンセミナー</p> <p>①「若者とビル」 北村 邦夫((社)日本家族計画協会 クリニック)</p> <p>②「思春期女性の QOL-産婦人科の立場からみつめて」 家坂 清子(医療法人 清和会 いえさか産婦人科医院)</p> <p>③「若い女性における性感染〜クラミジア・ヒトパピローマウイルス感染〜」 笹川 寿之(金沢大学医学部保健学科 小児母性看護学)</p> <p>④「思春期の性機能と骨塩量-産婦人科の立場から-」 甲村 弘子(大阪樟蔭女子大学 人間学部)</p>	
	1		<p>Ⅲ『思春期学』の発行 平成14年 6月 『思春期学』 Vol. 20 No. 2 発行 <特集> 思春期とジェンダー <原著論文> 2篇 平成14年 9月 『思春期学』 Vol. 20 No. 3 発行 <特集> 健やか親子21と思春期保健対策 <原著論文> 3篇 平成14年12月 『思春期学』 Vol. 20 No. 4 発行 <特集Ⅰ> 第21回日本思春期学会学術集会<特集Ⅱ> 思春期男子の泌尿器科的諸問題 <原著論文> 2篇 平成15年 3月 『思春期学』 Vol. 21 No. 1 発行 <特集> 生を豊かにする死の教育 <原著論文> 3篇Ⅳ. 渉外活動1. 「健やか親子21」国民運動推進協議会・参加団体として、特に「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」の課題に取り組む。「健やか親子21」推進協議会(厚生労働省) 期 日:平成14年12月25日(水) 会 場:合同庁舎5号館平成14年度厚生労働科学研究子ども家庭総合研究公開シンポジウム 期日:平成15年3月4日(火) 会場:JAホール2. アジア性科学連合、日本性科学連合への参加 日本性科学連合(JFS)第4回「性科学セミナー」 期日:平成2002年10月19日(土) 会場:大阪市立大学附属病院 5F 講堂3. 世界小児思春期婦人科連合(FIGU)への参加4. WAS(World Association For Sexology)への参加5. 学会、会議、セミナー等への後援</p>	
	1		<p>1)(財)日本精神衛生会主催、第16回日本精神保健会議「メンタルヘルスの</p>	